

# 本気で学ぶ!全経簿記 1 級

---

## 工業レジюме

---



## 本気で学ぶ全経簿記 1 級

### 工業編 1 (財務諸表作成)

#### ①「消費」という概念をしっかりと

日商簿記 2 級のフリーテキスト講座の第 1 回を必ず見て下さい (一番大事)

勘定連絡図の中の消費の位置づけを押さえて下さい

ここで原価計算表と仕掛品 a/c の関係性も確認しておいて下さい

全経の総合問題を解くには必須の知識です

#### ②予定配賦とは

計算の迅速性と個別原価計算における単価の安定性の為に行います

なぜ、そのような処理を行うのか

予定と実際の差額は外部にはどのように報告するのかの意識をもって下さい

#### ③月次決算の考え方を理解する

最近では日商簿記 2 級でも月次決算の考え方が採用されています。

今回の財務諸表作成では月次発生額 (消費額) の計算を正しくできる能力が試されます

#### ④整理前 T / B と整理後 T / B の概念

全経 1 級の工業では決算整理後 T/B が与えられるケースが多いです

整理後の持つ意味をしっかりと理解しましょう

## 各論編

### 177 回類題-解説用

材料費の勘定連絡を考えましょう

材料		仕掛品	
期首	消費	期首	
2,000,000	12,000,000	1,120,000	
購入	帳簿残	材料	
	2,200,000	1,200,000	
	実際残		
	2,100,000		

購入額は帳簿上の逆算です

$$\therefore 2,000,000 + X = 12,000,000 + 2,200,000$$

製品も同様の考え方で計算します

未払・前払を含む当期発生額の計算

感覚法

未払のケース

当期末未払：当期の経費だから加算

当期首未払：前期の経費だから減算（当期支払った中に前期分が含まれてるから）

前払のケース

当期末前払：来期の経費を当期支払ってるから減算

当期首前払：前期に当期分を払ってるから加算

仕訳法

未払のケース（貸金を例に）

再振替 未払費用 300,000 / 貸金 300,000

支払 貸金 4,090,000 / 現預金 4,090,000

見越 貸金 310,000 / 未払費用 310,000

<貸金計> 4,090,000 + 310,000 - 300,000 = 4,100,000

前払のケース（保険料を例に）

再振替 保険料 130,000 / 前払費用 130,000

支払 保険料 990,000 / 現預金 990,000

繰延 前払費用 120,000 / 保険料 120,000

< 保険料計 > 1,000,000

後は主要科目を勘定連絡図に展開し、製造原価報告書→損益計算書→株主資本等計算書→貸借対照表の順に記載する

問題文の後 T / B の空欄の考え方

< 借方 >

前払保険料は問題文より期末の数値

売上原価は C/R 作成してから製品勘定の BOX で算定

販売管理費は P/L 作成過程で確認できる

仮払法人税は逆算で 992,000

< 貸方 >

貸倒引当金は期末の計算結果

資本金は S/S より

未払賃金、外注加工費、電力量は問題文より期末の数値

売上は差額で 28,618,000

### 176 回類題-解説用（個別原価計算）

本試験では、ここまで書きませんが、あえて勘定連絡図を別紙に添付します。全体像を把握して頂くためです

主要科目（製品まで）を記入する。期首残高を記入する。  
各取引を記入する。この時原価計算表に記入できるものは、先に記入する。  
そのうえで勘定連絡（実際には解答用紙）に記入する

素材や直接工に関しては、間接材料になるものは問題用紙に金額記入する

### 175 回類題-解説用（工程別総合原価計算）

ポイントは勘定連絡図（計算用紙）の書き方につきます  
処理すべきデータが多いのでしっかりと確認します

本来は横書きが良いが、プロジェクト説明の関係で縦書きにしています

半製品・副産物の取扱いに注意  
副産物は仕損と同様に取り扱います（度外視法）

#### 副産物等の処理と評価（原価計算基準を編集）

総合原価計算において、副産物が生ずる場合には、その価額を算定して、これを主産物の総合原価から控除する。副産物とは主産物の製造過程から必然に派生する物品をいう。

作業くず、仕損品等の処理および評価は、副産物に準ずる。

加工費の算定は賃金と経費と減価償却費を第一工程と第二工程にわたる

**173回**（講座では、このレジュメを使用していません。下記の内容を説明していますのでしっかり確認して下さい）

組別総合原価計算

資料の整理方法は日商2級とほぼ同じ。そこを押さえれば比較的理解しやすい論点です

「副産物を完成品原価から控除する」という考え方とBOXでの副産物の書き方をしっかりインクしておく必要があります。

**171回→170回**

部門の全体的な考え方をしっかり理解して下さい

その為には必ず171回で全体像を把握して、その上で170回を確認して下さい

できれば、事前に「日商2級フリーテキスト講座」の部門別計算を確認して下さい

## 全経簿記1級工業 第177回 第4問類題

### 問題

次の資料および付記事項にもとづいて、全経工業株式会社の製造原価報告書、損益計算書、貸借対照表および株主資本等変動計算書を作成しなさい。(44点)

### 資料

1.決算整理後残高試算表（カッコ内の金額は、各自推定しなさい。）

現金預金	4,500,000	支払手形	2,000,000
受取手形	2,500,000	買掛金	3,200,000
売掛金	4,600,000	借入金	3,000,000
製品	3,400,000	貸倒引当金	( )
材料	2,100,000	建物減価償却累計額	2,100,000
仕掛品	1,120,000	機械減価償却累計額	2,500,000
貸付金	2,000,000	備品減価償却累計額	1,000,000
仮払法人税等	( )	資本金	( )
建物	9,500,000	繰越利益剰余金	900,000
機械	5,500,000	未払賃金	( )
備品	1,600,000	未払外注加工賃	( )
土地	7,200,000	未払電力料	( )
前払保険料	( )	売上	( )
売上原価	( )	受取利息	230,000
販売費及び一般管理費	( )		
支払利息	328,000		
	( )		69,080,000

2.会計期間の各費目消費高（カッコ内の金額は、各自推定しなさい。）

なお、棚卸減耗費、貸倒引当金繰入、賃金、外注加工賃、電力料、保険料、減価償却費の消費高の金額は、下記の付記事項により処理されている。

（単位：円）

費目	消費高	内訳	
		製造	販売費及び一般管理費
材 料 費	12,000,000	( )	—
賃 金	( )	( )	—
給 料	2,200,000	400,000	( )
外 注 加 工 賃	( )	( )	—
修 繕 費	80,000	( )	—
電 力 料	( )	500,000	( )
租 税 公 課	180,000	80,000	( )
保 険 料	( )	( )	400,000
広 告 宣 伝 費	800,000	—	( )
発 送 費	( )	—	100,000
減 価 償 却 費	( )	( )	( )
貸 倒 引 当 金 繰 入	( )	—	( )
棚 卸 減 耗 費	( )	( )	( )
雑 費	200,000	( )	120,000
	( )	( )	( )

付記事項

(1)決算整理後試算表中の製品勘定と材料勘定の金額は、実地棚卸高で示されている。それぞれの帳簿棚卸高は、製品が¥3,500,000、材料が¥2,200,000である。製品および材料のいずれについても、その差額は、保管によって生じた数量の減少で、正常な発生額であった。なお、材料の減耗は、製造原価として

いる。  
(2)受取手形および売掛金の期末残高に対して、貸倒実績率 2%で差額法によって貸倒引当金を設定している。ただし、貸倒引当金の決算整理前期末残高は¥42,000であった。

(3)賃金の期首未払高は¥300,000で、当期支払高は¥4,090,000であり、当期末未払高¥310,000があった。

(4)外注加工賃の期首前払高は¥40,000で、当期支払高は¥210,000であり、当期末未払高¥30,000があった。

(5)電力料の期首未払高は¥70,000で、当期支払高は¥920,000であり、当期末未払高¥50,000があった。

(6)保険料の期首前払高は¥130,000で、当期支払高は¥990,000であり、当期末前払高¥120,000があった。

(7)減価償却費の内訳は、建物¥800,000（製造 60%、販売費及び一般管理費 40%）、機械¥600,000（製造 100%）、備品¥200,000（製造 50%、販売費及び一般管理費 50%）であった。

3.期首棚卸高は、下記のとおりであった。

製品 ¥3,200,000 材料 ¥2,000,000 仕掛品 ¥1,300,000

製造原価報告書

自平成 26 年 2 月 1 日 至平成 27 年 1 月 31 日

全経工業株式会社

(単位：円)

I 材料費	
1. 期首材料棚卸高	( )
2. ( )	( )
合計	( )
3. 期末材料棚卸高	( )
当期材料費	( )
II 労務費	
1. ( )	( )
2. 給料	( )
当期労務費	( )
III 経費	
1. 外注加工賃	( )
2. 電力料	( )
3. ( )	( )
4. 修繕費	( )
5. 租税公課	( )
6. 保険料	( )
7. 棚卸減耗費	( )
8. 雑費	( )
当期経費	( )
当期製造費用	( )
( )	( )
合計	( )
期末仕掛品棚卸高	( )
( )	( )

損益計算書

自平成 26 年 2 月 1 日 至平成 27 年 1 月 31 日

全経工業株式会社

(単位：円)

I 売上高	( )	
II 売上原価		
1. 期首製品棚卸高	( )	
2. 当期製品製造原価	( )	
合 計	( )	
3. ( )	( )	( )
売上総利益	( )	
III 販売費及び一般管理費		
1. 給 料	( )	
2. 広 告 宣 伝 費	( )	
3. 発 送 費	( )	
4. 電 力 料	( )	
5. 減 価 償 却 費	( )	
6. 租 税 公 課	( )	
7. 保 険 料	( )	
8. 貸倒引当金繰入	( )	
9. ( )	( )	
10. 雑 費	( )	( )
営業利益	( )	
IV 営業外収益		
1. ( )	( )	
V 営業外費用		
1. ( )	( )	
税引前当期純利益	( )	
法 人 税 等		1,960,000
当 期 純 利 益	( )	

貸借対照表

全経工業株式会社

平成 27 年 1 月 31 日

(単位：円)

現金預金	( )	支払手形	( )
受取手形	( )	買掛金	( )
売掛金	( )	借入金	( )
製品	( )	未払費用	( )
材料	( )	未払法人税等	( )
仕掛品	( )	( )	( )
貸付金	( )	建物減価償却累計額	( )
( )	( )	機械減価償却累計額	( )
建物	( )	備品減価償却累計額	( )
機械	( )	資本金	( )
備品	( )	繰越利益剰余金	( )
土地	( )		
	( )		( )

株式資本等変動計算書

全経工業株式会社

自平成 26 年 2 月 1 日 至平成 27 年 1 月 31 日

(単位：円)

項目	表示区分		
	株式資本		
	資本金	繰越利益剰余金	純資産合計
平成26年2月1日残高	25,000,000	( )	( )
会計年度中の変動額			
当期純利益		( )	( )
会計年度中の変動額合計		( )	( )
平成27年1月31日残高	( )	( )	( )

解答 ● @3点×14=42点 ○ @2点×1=2点

製造原価報告書

自平成26年2月1日 至平成27年1月31日

全経工業株式会社

(単位：円)

I 材料費	
1. 期首材料棚卸高	( 2,000,000 )
2. (当期材料仕入高)	( 12,200,000 )
合計	( 14,200,000 )
3. 期末材料棚卸高	( 2,200,000 )
当期材料費	( 12,000,000 )
II 労務費	
1. (賃金)	( 4,100,000 )
2. 給料	( 400,000 )
当期労務費	( 4,500,000 )
III 経費	
1. 外注加工賃	( 280,000 )
2. 電力料	( 500,000 )
3. (減価償却費)	( 1,180,000 )
4. 修繕費	( 80,000 )
5. 租税公課	( 80,000 )
6. 保険料	( 600,000 )
7. 棚卸減耗費	( 100,000 )
8. 雑費	( 80,000 )
当期経費	( 2,900,000 )
当期製造費用	( 19,400,000 )
(期首仕掛品棚卸高)	( 1,300,000 )
合計	( 20,700,000 )
期末仕掛品棚卸高	( 1,120,000 )
(当期製品製造原価)	( 19,580,000 )

損益計算書

自平成 26 年 2 月 1 日 至平成 27 年 1 月 31 日

全経工業株式会社

(単位：円)

I 売上高	( 28,618,000 )	
II 売上原価		
1. 期首製品棚卸高	( 3,200,000 )	
2. 当期製品製造原価	( 19,580,000 )	
合計	( 22,780,000 )	
3. (期末製品棚卸高)	( 3,500,000 )	(● 19,280,000)
売上総利益	( 9,338,000 )	
III 販売費及び一般管理費		
1. 給料	( 1,800,000 )	
2. 広告宣伝費	( 800,000 )	
3. 発送費	( 100,000 )	
4. 電力料	(● 400,000)	
5. 減価償却費	( 420,000 )	
6. 租税公課	( 100,000 )	
7. 保険料	( 400,000 )	
8. 貸倒引当金繰入	(● 100,000)	
9. (棚卸減耗費)	(● 100,000)	
10. 雑費	( 120,000 )	( 4,340,000 )
営業利益	( 4,998,000 )	
IV 営業外収益		
1. (受取利息)	( 230,000 )	
V 営業外費用		
1. (支払利息)	( 328,000 )	
税引前当期純利益	( 4,900,000 )	
法人税等	1,960,000	
当期純利益	(○ 2,940,000)	

貸借対照表

全経工業株式会社

平成 27 年 1 月 31 日

(単位：円)

現金預金	( 4,500,000 )	支払手形	( 2,000,000 )
受取手形	( 2,500,000 )	買掛金	( 3,200,000 )
売掛金	( 4,600,000 )	借入金	( 3,000,000 )
製品	( 3,400,000 )	未払費用	( ● 390,000 )
材料	( 2,100,000 )	未払法人税等	( ● 968,000 )
仕掛品	( 1,120,000 )	(貸倒引当金)	( ● 142,000 )
貸付金	( 2,000,000 )	建物減価償却累計額	( 2,100,000 )
(前払費用)	( ● 120,000 )	機械減価償却累計額	( 2,500,000 )
建物	( 9,500,000 )	備品減価償却累計額	( 1,000,000 )
機械	( 5,500,000 )	資本金	( 25,000,000 )
備品	( 1,600,000 )	繰越利益剰余金	( 3,840,000 )
土地	( 7,200,000 )		
	( 44,140,000 )		( 44,140,000 )

株式資本等変動計算書

全経工業株式会社

自平成 26 年 2 月 1 日 至平成 27 年 1 月 31 日

(単位：円)

表示区分 項目	株式資本		
	資本金	繰越利益剰余金	純資産合計
平成26年2月1日残高	25,000,000	( 900,000 )	( 25,900,000 )
会計年度中の変動額			
当期純利益		( 2,940,000 )	( 2,940,000 )
会計年度中の変動額合計		( 2,940,000 )	( 2,940,000 )
平成27年1月31日残高	( 25,000,000 )	( ● 3,840,000 )	( 28,840,000 )

参考

決算整理後残高試算表

平成27年1月31日現在

(単位：円)

現金預金	4,500,000	支払手形	2,000,000
受取手形	2,500,000	買掛金	3,200,000
売掛金	4,600,000	借入金	3,000,000
製品	3,400,000	貸倒引当金	( 142,000 )
材料	2,100,000	建物減価償却累計額	2,100,000
仕掛品	1,120,000	機械減価償却累計額	2,500,000
貸付金	2,000,000	備品減価償却累計額	1,000,000
仮払法人税等	( 992,000 )	資本金	( 25,000,000 )
建物	9,500,000	繰越利益剰余金	900,000
機械	5,500,000	未払賃金	( 310,000 )
備品	1,600,000	未払外注加工賃	( 30,000 )
土地	7,200,000	未払電力料	( 50,000 )
前払保険料	( 120,000 )	売上	( 28,618,000 )
売上原価	( 19,280,000 )	受取利息	230,000
販売費及び一般管理費	( 4,340,000 )		
支払利息	328,000		
	( 69,080,000 )		69,080,000

(単位：円)

費目	消費高	内訳	
		製造	販売費及び一般管理費
材料費	12,000,000	( 12,000,000 )	—
賃金	( 4,100,000 )	( 4,100,000 )	—
給料	2,200,000	400,000	( 1,800,000 )
外注加工賃	( 280,000 )	( 280,000 )	—
修繕費	80,000	( 80,000 )	—
電力料	( 900,000 )	500,000	( 400,000 )
租税公課	180,000	80,000	( 100,000 )
保険料	( 1,000,000 )	( 600,000 )	400,000
広告宣伝費	800,000	—	( 800,000 )
発送費	( 100,000 )	—	100,000
減価償却費	( 1,600,000 )	( 1,180,000 )	( 420,000 )
貸倒引当金繰入	( 100,000 )	—	( 100,000 )
棚卸減耗費	( 200,000 )	( 100,000 )	( 100,000 )
雑費	200,000	( 80,000 )	120,000
	( 23,740,000 )	( 19,400,000 )	( 4,340,000 )



7.直接工の賃金消費高を、次の作業時間によって計上した。予定消費賃率は¥700（1時間あたり）である。

直接作業時間				間接作業時間	合計
製造指図書#301	製造指図書#302	製造指図書#303	補修指図書#301-R1		
1,200 時間	1,600 時間	1,000 時間	200 時間	600 時間	4,600 時間

8.直接工の月末未払賃金高は¥500,000 であり、賃率差異を計上した。

9.間接工等の月末未払賃金高は¥80,000 であり、実際消費高を製造間接費とした。

10.製造間接費を、直接工の直接作業時間により予定配賦した。

11.経費支払表において、製造指図書番号の記入がある経費消費高は、¥60,000 (#301)、¥40,000 (#302)、¥30,000 (#303) であり、製造指図書番号の記入がない経費消費高は、¥1,000,000 であった。なお、これらの経費は、すべて小切手を振り出して支払っている。

12.当月分の減価償却費¥750,000 を製造間接費として計上した。

13.製造間接費の予定配賦高と実際消費高との差額を製造間接費配賦差異勘定に振り替えた。

14.補修指図書#301-R1 の作業が終了し、集計された製造原価を製造指図書#301 に賦課した。（仕損費勘定は使用しないこと）

15.製造指図書#302・#303 の製造過程より作業くずが発生した。これらの評価額は各製造指図書#302・#303 の製造原価から控除する。

製造指図書#302 ¥25,000      製造指図書#303 ¥15,000

16.製造指図書#301 と#302 が完成した。製品#301 を販売価格¥4,800,000 で顧客に引き渡し、代金はすべて掛けとした。なお、製品#301 の売上原価も同時に計上した。

17.収益勘定・費用勘定を月次損益勘定へ振り替えた。

答案用紙

素 材

前 月 繰 越	( )	仕 掛 品	( )
( )	( )	( )	( )
		材料消費価格差異	( )
		製造間接費	( )
		次 月 繰 越	( )
	( )		( )
前 月 繰 越	( )		

工 場 消 耗 品

前 月 繰 越	( )	( )	( )
買 掛 金	( )	次 月 繰 越	( )
	( )		( )
前 月 繰 越	( )		

賃 金 給 料

諸 口	( )	前 月 繰 越	( )
賃 率 差 異	( )	( )	( )
( )	( )	製 造 間 接 費	( )
		製 造 間 接 費	( )
	( )		( )
		前 月 繰 越	( )

仕 掛 品

前 月 繰 越	( )	仕 掛 品	( )
( )	( )	作 業 < ず	( )
賃 金 給 料	( )	( )	( )
当 座 預 金	( )	次 月 繰 越	( )
製 造 間 接 費	( )		
仕 掛 品	( )		
	( )		( )
前 月 繰 越	( )		

製 造 間 接 費

素 材	( )	仕 掛 品	( )
素 材	( )	製造間接費配賦差異	( )
工 場 消 耗 品	( )		
賃 金 給 料	( )		
( )	( )		
当 座 預 金	( )		
減 価 償 却 累 計 額	( )		
	( )		( )

製 品

仕 掛 品	( )	( )	( )
		次 月 繰 越	( )
	( )		( )
前 月 繰 越	( )		

売 上 原 価

製 品	( )	月 次 損 益	( )
-----	-----	---------	-----

売 上

( )	( )	売 掛 金	( )
-----	-----	-------	-----

原価計算表

(単位：円)

指図書 摘要	#301	#302	#303	#301-R1	合計
月初仕掛品原価					
直接材料費					
直接労務費					
直接経費					
製造間接費					
小計					
補修費					
合計					
作業くず評価額					
差引計					
備考	完 成	完 成	仕 掛 中	#301～賦課	

解答 ● @4点×11=44点

素 材

前月繰越	( 280,000 )	仕掛品	( 2,300,000 )
(買掛金)	( 2,700,000 )	(製造間接費)	( 200,000 )
		材料消費価格差異	( ● 50,000 )
		製造間接費	( 100,000 )
		次月繰越	( 330,000 )
	( 2,980,000 )		( 2,980,000 )
前月繰越	( 330,000 )		

工場消耗品

前月繰越	( 30,000 )	(製造間接費)	( ● 250,000 )
買掛金	( 270,000 )	次月繰越	( 50,000 )
	( 300,000 )		( 300,000 )
前月繰越	( 50,000 )		

賃金給料

諸口	( 3,600,000 )	前月繰越	( 500,000 )
賃率差異	( ● 120,000 )	(仕掛品)	( 2,800,000 )
(次月繰越)	( 580,000 )	製造間接費	( 420,000 )
		製造間接費	( 580,000 )
	( 4,300,000 )		( 4,300,000 )
		前月繰越	( 580,000 )

仕掛品

前月繰越	( 300,000 )	仕掛品	( 400,000 )
(素材)	( 2,300,000 )	作業<ず	( 40,000 )
賃金給料	( 2,800,000 )	(製品)	( 6,500,000 )
当座預金	( 130,000 )	次月繰越	( ● 2,190,000 )
製造間接費	( 3,200,000 )		
仕掛品	( 400,000 )		
	( 9,130,000 )		( 9,130,000 )
前月繰越	( 2,190,000 )		

製造間接費

素材	( 200,000 )	仕掛品	( 3,200,000 )
素材	( ● 100,000 )	製造間接費配賦差異	( ● 100,000 )
工場消耗品	( 250,000 )		
賃金給料	( 420,000 )		
(賃金給料)	( 580,000 )		
当座預金	( 1,000,000 )		
減価償却累計額	( 750,000 )		
	( 3,300,000 )		( 3,300,000 )

製品

仕掛品	( ● 6,500,000 )	(売上原価)	( 3,335,000 )
		次月繰越	( 3,165,000 )
	( 6,500,000 )		( 6,500,000 )
前月繰越	( 3,165,000 )		

売上原価

製品	( 3,335,000 )	月次損益	( 3,335,000 )
----	---------------	------	---------------

売上

(月次損益)	( 4,800,000 )	売掛金	( 4,800,000 )
--------	---------------	-----	---------------

原価計算表

(単位：円)

指図書 摘要	#301	#302	#303	#301-R1	合計
月初仕掛品原価	300,000	—	—	—	300,000
直接材料費	775,000	750,000	675,000	● 100,000	2,300,000
直接労務費	840,000	● 1,120,000	700,000	140,000	2,800,000
直接経費	● 60,000	40,000	30,000	—	130,000
製造間接費	960,000	1,280,000	● 800,000	160,000	3,200,000
小計	2,935,000	3,190,000	2,205,000	400,000	8,730,000
補修費	400,000			△ 400,000	0
合計	3,335,000	3,190,000	2,205,000	0	8,730,000
作業くず評価額		25,000	15,000	—	40,000
差引計	3,335,000	3,165,000	2,190,000	0	8,690,000
備考	完 成	完 成	仕 掛 中	#301へ賦課	

# 全経 176 回 類題 (工業簿記)

① 500

素材 (平)

280,000	2,300,000
2,700,000	200,000
	(平) 50,000
	(損) 100,000
	330,000

② 消耗品

30,000	250,000
270,000	
	50,000

仕入品

300,000	(仕) 400,000
(素) 2,300,000	(平) 40,000
(直工) 2,800,000	6,500,000
(経) 170,000	
(仕) 3,200,000	
(仕) 400,000	2,190,000
9,130,000	

製品

	4,800,000
6,500,000	3,335,000
	3,165,000

① 700

直工 (平)

9,000,000	400,000
50,000	2,800,000
(差) 120,000	420,000

② 直工

600,000	100,000
80,000	580,000

① 800

(素) 200,000	3,200,000
(平) 100,000	
(平) 250,000	(差) 100,000
(直工) 420,000	
(仕) 580,000	
(経) 1,000,000	
(平) 750,000	



- 4.第1工程完了品のうち500個を倉庫に保管し、残りの4,900個はただちに第2工程へ引渡した。
- 5.第2工程で製品4,800個が完成した。その際、第2工程の終点において副産物200個が分離した。なお、副産物の評価額は¥45,000である。
- 6.製品4,900個を@¥970で販売し、代金は掛けとした。同時に、製品の売上原価も計上する。
- 7.半製品510個を@¥520で販売し、代金は現金で受け取った。同時に、半製品の売上原価も計上する。
- 8.副産物190個を¥62,000で販売し、代金は現金で受け取った。なお、その売上原価は¥43,800である。同時に、副産物の売上原価も計上する。
- 9.費用勘定を月次損益勘定へ振り替えた。

答案用紙

第1工程仕掛品

前月繰越	( )	( )	( )
材料	( )	半製品	( )
( )	( )	次月繰越	( )
経費	( )		
	( )		( )
前月繰越	( )		

第2工程仕掛品

前月繰越	( )	製品	( )
賃金	( )	( )	( )
( )	( )	次月繰越	( )
第1工程仕掛品	( )		
	( )		( )
前月繰越	( )		

製品

前月繰越	( )	( )	( )
( )	( )	次月繰越	( )
	( )		( )
前月繰越	( )		

半製品

前月繰越	( )	( )	( )
( )	( )	次月繰越	( )
	( )		( )
前月繰越	( )		

副産物

( )	( )	副産物売上原価	( )
第2工程仕掛品	( )	( )	( )
	( )		( )
前月繰越	( )		

売上原価

製 品	( )	( )	( )
-----	-----	-----	-----

半製品売上原価

( )	( )	月次損益	( )
-----	-----	------	-----

副産物売上原価

副 産 物	( )	( )	( )
-------	-----	-----	-----

工程別原価計算表

摘 要	第1工程	第2工程	合計
当月製造費用			
直接材料費	( )	( )	( )
加工費	( )	( )	( )
前工程費	( )	( )	( )
計	( )	( )	( )
月初仕掛品原価			
直接材料費	( )	( )	( )
加工費	( )	( )	( )
前工程費	( )	( )	( )
計	( )	( )	( )
月末仕掛品原価			
直接材料費	( )	( )	( )
加工費	( )	( )	( )
前工程費	( )	( )	( )
副産物評価額	( )	( )	( )
工程完成品原価	( )	( )	( )
工程完成品数量	( )個	( )個	—
工程完成品単価	(@ ¥ )	(@ ¥ )	—
次工程振替額	( )	—	—

解答 ●@4点×11=44点

第1工程仕掛品

前月繰越	( 330,800 )	(第2工程仕掛品)	(●) 1,813,000 )
材料	(●) 849,200 )	半製品	( 185,000 )
(賃金)	( 900,000 )	次月繰越	( 212,000 )
経費	( 130,000 )		
	( 2,210,000 )		( 2,210,000 )
前月繰越	( 212,000 )		

第2工程仕掛品

前月繰越	( 319,000 )	製品	( 3,312,000 )
賃金	( 1,100,000 )	(副産物)	( 45,000 )
(経費)	(●) 370,000 )	次月繰越	( 245,000 )
第1工程仕掛品	( 1,813,000 )		
	( 3,602,000 )		( 3,602,000 )
前月繰越	( 245,000 )		

製品

前月繰越	( 524,000 )	(売上原価)	( 3,353,000 )
(第2工程仕掛品)	(●) 3,312,000 )	次月繰越	( 483,000 )
	( 3,836,000 )		( 3,836,000 )
前月繰越	( 483,000 )		

半製品

前月繰越	( 45,000 )	(半製品売上原価)	(●) 195,500 )
(第1工程仕掛品)	( 185,000 )	次月繰越	( 34,500 )
	( 230,000 )		( 230,000 )
前月繰越	( 34,500 )		

副産物

(前月繰越)	( 8,000 )	副産物売上原価	( 43,800 )
第2工程仕掛品	( 45,000 )	(次月繰越)	(●) 9,200 )
	( 53,000 )		( 53,000 )
前月繰越	( 9,200 )		

売上原価

製 品	(● 3,353,000)	(月次損益)	( 3,353,000 )
-----	---------------	--------	---------------

半製品売上原価

(半 製 品)	( 195,500 )	月次損益	( 195,500 )
---------	-------------	------	-------------

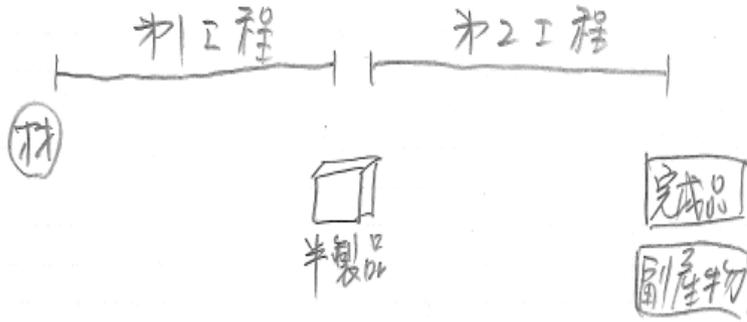
副産物売上原価

副 産 物	( 43,800 )	(月次損益)	( 43,800 )
-------	------------	--------	------------

工程別原価計算表

摘 要	第1工程	第2工程	合計
当月製造費用			
直接材料費	( 849,200 )	( — )	( 849,200 )
加工費	(● 1,030,000)	( 1,470,000 )	( 2,500,000 )
前工程費	( — )	(● 1,813,000)	( 1,813,000 )
計	( 1,879,200 )	( 3,283,000 )	( 5,162,200 )
月初仕掛品原価			
直接材料費	( 142,800 )	( — )	( 142,800 )
加工費	( 188,000 )	( 100,000 )	( 288,000 )
前工程費	( — )	( 219,000 )	( 219,000 )
計	( 2,210,000 )	( 3,602,000 )	( 5,812,000 )
月末仕掛品原価			
直接材料費	(● 128,000)	( — )	( 128,000 )
加工費	( 84,000 )	( 60,000 )	( 144,000 )
前工程費	( — )	( 185,000 )	( 185,000 )
副産物評価額	( — )	( 45,000 )	( 45,000 )
工程完成品原価	( 1,998,000 )	( 3,312,000 )	( 5,310,000 )
工程完成品数量	( 5,400 )個	( 4,800 )個	—
工程完成品単価	( @ ¥ 370 )	( @ ¥ ● 690 )	—
次工程振替額	( 1,813,000 )	—	—

# 全経 175回 類題 (工業簿記)



AM		FZF0		FZF0	
142,800	1,000	4,900	784,000	219,000	600
(188,000)	(600)		(1,029,000)	(100,000)	(700)
849,200		500	80,000	1,870,000	4,900
			(105,000)		200
(1,030,000)		800	128,000	(1,470,000)	500
			(400)(84,000)		(200)
					(60,000)

7,312,000

1,847,000  
2,151,000  
△45,000

材料 FZ	
90,000	600
	5,800
876,000	800
	116,800

849,200

半製品 AM	
45,000	100
	510
185,000	500
	90
	24,500

265,200

製品 FZ	
524,000	800
	4,900
7,312,000	700
	483,000

4,753,000

3,353,000

資金 (加工)	
2,010,000	200,000
190,000	2,000,000

900,000  
1,100,000

副産物	
8,000	40
	190
45,000	200
	50

62,000

43,800

経七 (加工)	
50,000	500,000
470,000	60,000
80,000	

170,000  
370,000

# 全經簿記級 173回工業類題 (別冊総合原簿計算)

素材

5/0,000	(A) 1,800,000
	(B) 1,575,000
3,890,000	(B) 485,000 (差)
	540,000

総合

2,012,000	280,000
	(A) 728,000
	(B) 859,000 (差)
180,000	(B) 325,000

経費

40,000	(A) 130,000
	(B) 140,000
200,000	(B) 90,000
(300) 160,000	40,000

485,000	(A) 450,000
325,000	(B) 430,000
90,000	
900,000	

A組仕入品 (FZ)

△24,400

110,000	500	6,000	1,790,000
(60,000)	(300)		(1,324,400)
1,800,000	6,000	100	(100)
(728,000)		400	120,000
(130,000)	(6,000)	(200)	(43,600)
(450,000)			
(1,308,000)			

B組仕入品 (FZ)

120,000	600	6,400	1,570,000
(67,000)	(300)		(1,470,000)
1,575,000	6,300	500	125,000
(859,000)	(6,300)	(200)	(46,000)
(140,000)			
(450,000)			

組内 (1,449,000)

A組製品 (AM) @ 8%

276,000	600	6,100	7,116,000
3,090,000	6,000	500	255,000
			5,124,000

副産物 (廃棄)

24,400

B組製品 (AM) @ 7% 4,680,000

156,000	400	6,500	3,655,000
6,400		300	141,000

## 全経簿記1級 工業 第173回 第4問類題

### 問題

全経工業株式会社は、組別総合原価計算を採用し、A組とB組2種類の製品を製造している。下記の資料を参照して、各勘定の記入および原価計算表を作成しなさい。(44点)

### 資料

a. 月初勘定残高 (一部)

素 材 ¥510,000

A組仕掛品 ¥170,000 (うち直接材料費 ¥110,000 加工費 ¥60,000)

B組仕掛品 ¥187,000 (うち直接材料費 ¥120,000 加工費 ¥67,000)

A組製品 ¥276,000 (600個)

B組製品 ¥156,000 (400個)

b. 賃金給料勘定に、月初未払高¥280,000がある。

c. 経費勘定に、月初前払高¥40,000がある。

d. 素材はすべて製造着手のとき投入し、加工費は製造の進行につれて消費する。

e. A組製品の製造工程の終点において、副産物が分離される。

f. 月末仕掛品の評価は先入先出法により、売上原価の計算は平均法による。

### 取引

1. 素材¥3,845,000を掛で購入し、引取運賃¥45,000は小切手を振り出して支払った。

2. 素材の消費高の内訳は、次のとおりであった。なお、当月末帳簿棚卸高は¥540,000であり、棚卸減耗はなかった。

<u>A組</u>	<u>B組</u>	<u>組間接費</u>
¥1,800,000	¥1,575,000	¥各自推算

3. 当月分の賃金¥2,012,000から預り金¥212,000を差し引き、当座預金から各人の預金口座へ振り込んだ。

4. 賃金給料の消費高の内訳は、次のとおりであった。なお、賃金の月末未払高¥180,000があった。

<u>A組</u>	<u>B組</u>	<u>組間接費</u>
¥728,000	¥各自推算	¥325,000

5. 経費¥200,000を小切手を振り出して支払った。

6. 減価償却費の年間見積額は¥1,920,000であり、当月分を経費に計上した。

7. 経費の消費高は、組直接費が¥270,000(内訳:A組¥130,000 B組¥140,000)であり、残りが上記の減価償却費を含めて組間接費であった。なお、経費の月末前払高¥40,000があった。

8. 組間接費の実際発生高をA組に50%、B組に50%の割合で配賦した。

9.当月の製造状況は、次のとおりであった。

	<u>A 組</u>	<u>B 組</u>
月初仕掛品	500 個 (60%)	600 個 (50%)
当月投入	<u>6,000</u>	<u>6,300</u>
合 計	6,500 個	6,900 個
月末仕掛品	400 (50%)	500 (40%)
副産物	<u>100</u>	—
完 成 品	<u>6,000 個</u>	<u>6,400 個</u>

なお、仕掛品の（ ）内は、仕上り程度をあらわす。

10.上記の副産物の評価額は¥24,400 である。

11.当月の A 組製品の販売状況は、次のとおりであり、すべて掛販売であった。なお、A 組製品の販売時に売上原価も計上する。

販売量 6,100 個 売価 @¥840

12.当月の B 組製品の販売状況は、次のとおりであり、すべて掛販売であった。なお、B 組製品の販売時に売上原価も計上する。

販売量 6,500 個 売価 @¥720

答案用紙

素 材

前 月 繰 越	( )	( )	( )
買 掛 金	( )	B 組 仕 掛 品	( )
( )	( )	組 間 接 費	( )
		次 月 繰 越	( )
	( )		( )
前 月 繰 越	( )		

賃 金 給 料

( )	( )	未 払 賃 金 給 料	( )
預 り 金	( )	A 組 仕 掛 品	( )
未 払 賃 金 給 料	( )	( )	( )
		組 間 接 費	( )
	( )		( )

経 費

前 払 経 費	( )	A 組 仕 掛 品	( )
当 座 預 金	( )	B 組 仕 掛 品	( )
( )	( )	( )	( )
		前 払 経 費	( )
	( )		( )

組 間 接 費

素 材	( )	A 組 仕 掛 品	( )
賃 金 給 料	( )	( )	( )
( )	( )		
	( )		( )

A 組 仕 掛 品

前 月 繰 越	( )	A 組 製 品	( )
素 材	( )	( )	( )
賃 金 給 料	( )	次 月 繰 越	( )
経 費	( )		
( )	( )		
	( )		( )
前 月 繰 越	( )		

A 組 製 品

前 月 繰 越	( )	売 上 原 価	( )
( )	( )	次 月 繰 越	( )
	( )		( )
前 月 繰 越	( )		

B 組 仕 掛 品

前 月 繰 越	( )	( )	( )
素 材	( )	次 月 繰 越	( )
( )	( )		
経 費	( )		
組 間 接 費	( )		
	( )		( )
前 月 繰 越	( )		

B 組 製 品

( )	( )	( )	( )
B 組 仕 掛 品	( )	次 月 繰 越	( )
	( )		( )
前 月 繰 越	( )		

A 組原価計算表

摘 要	金 額	
月初仕掛品		
直接材料費	( )	
加工費	( )	( )
当月製造費用		
組間接費		
直接材料費	( )	
直接労務費	( )	
直接経費	( )	
組間接費配賦額	( )	( )
合 計		( )
月末仕掛品		
直接材料費	( )	
加工費	( )	( )
副産物評価額		( )
完成品原価		( )
完成品数量		( 個 )
単 位 原 価		( @ ¥ )

B 組原価計算表

摘 要	金 額	
月初仕掛品		
直接材料費	( )	
加工費	( )	( )
当月製造費用		
組間接費		
直接材料費	( )	
直接労務費	( )	
直接経費	( )	
組間接費配賦額	( )	( )
合 計		( )
月末仕掛品		
直接材料費	( )	
加工費	( )	( )
完成品原価		( )
完成品数量		( 個 )
単 位 原 価		( @ ¥ )

解答 ● @4点×11=44点

素 材

前月繰越	( 510,000 )	( A組仕掛品 )	( 1,800,000 )
買掛金	( 3,845,000 )	B組仕掛品	( 1,575,000 )
(当座預金)	( 45,000 )	組間接費	( ● 485,000 )
		次月繰越	( 540,000 )
	( 4,400,000 )		( 4,400,000 )
前月繰越	( 540,000 )		

賃 金 給 料

(当座預金)	( 1,800,000 )	未払賃金給料	( 280,000 )
預り金	( 212,000 )	A組仕掛品	( 728,000 )
未払賃金給料	( 180,000 )	( B組仕掛品 )	( ● 859,000 )
		組間接費	( 325,000 )
	( 2,192,000 )		( 2,192,000 )

経 費

前払経費	( 40,000 )	A組仕掛品	( ● 130,000 )
当座預金	( 200,000 )	B組仕掛品	( 140,000 )
(減価償却累計額)	( 160,000 )	(組間接費)	( 90,000 )
		前払経費	( 40,000 )
	( 400,000 )		( 400,000 )

組 間 接 費

素 材	( 485,000 )	A組仕掛品	( 450,000 )
賃 金 給 料	( 325,000 )	( B組仕掛品 )	( ● 450,000 )
(経 費)	( 90,000 )		
	( 900,000 )		( 900,000 )

A 組 仕 掛 品

前 月 繰 越	( 170,000 )	A 組 製 品	( 3,090,000 )
素 材	( 1,800,000 )	( 副 産 物 )	( 24,400 )
賃 金 給 料	( 728,000 )	次 月 繰 越	● 163,600 )
経 費	( 130,000 )		
( 組 間 接 費 )	( 450,000 )		
	( 3,278,000 )		( 3,278,000 )
前 月 繰 越	( 163,600 )		

A 組 製 品

前 月 繰 越	( 276,000 )	売 上 原 価	( 3,111,000 )
( A 組 仕 掛 品 )	● 3,090,000 )	次 月 繰 越	( 255,000 )
	( 3,366,000 )		( 3,366,000 )
前 月 繰 越	( 255,000 )		

B 組 仕 掛 品

前 月 繰 越	( 187,000 )	( B 組 製 品 )	● 3,040,000 )
素 材	( 1,575,000 )	次 月 繰 越	( 171,000 )
( 賃 金 給 料 )	( 859,000 )		
経 費	( 140,000 )		
組 間 接 費	( 450,000 )		
	( 3,211,000 )		( 3,211,000 )
前 月 繰 越	( 171,000 )		

B 組 製 品

( 前 月 繰 越 )	( 156,000 )	( 売 上 原 価 )	● 3,055,000 )
B 組 仕 掛 品	( 3,040,000 )	次 月 繰 越	( 141,000 )
	( 3,196,000 )		( 3,196,000 )
前 月 繰 越	( 141,000 )		

A 組原価計算表

摘 要	金 額	
月初仕掛品		
直接材料費	( 110,000 )	
加工費	( 60,000 )	( 170,000 )
当月製造費用		
組間接費		
直接材料費	( 1,800,000 )	
直接労務費	( 728,000 )	
直接経費	( 130,000 )	
組間接費配賦額	( ● 450,000 )	( 3,108,000 )
合 計		( 3,278,000 )
月末仕掛品		
直接材料費	( 120,000 )	
加工費	( ● 43,600 )	( 163,600 )
副産物評価額		( 24,400 )
完成品原価		( 3,090,000 )
完成品数量		( 6,000 個 )
単 位 原 価		( @ ¥ 515 )

B 組原価計算表

摘 要	金 額	
月初仕掛品		
直接材料費	( 120,000 )	
加工費	( 67,000 )	( 187,000 )
当月製造費用		
組間接費		
直接材料費	( 1,575,000 )	
直接労務費	( 859,000 )	
直接経費	( 140,000 )	
組間接費配賦額	( 450,000 )	( 3,024,000 )
合 計		( 3,211,000 )
月末仕掛品		
直接材料費	( ● 125,000 )	
加工費	( 46,000 )	( 171,000 )
完成品原価		( 3,040,000 )
完成品数量		( 6,400 個 )
単 位 原 価		( @ ¥ 475 )

第171回 全経簿記1級工業類題 (部門責任報告書の部門別)

材
1,100,800 (原価計算書)
692,000

労
1,022,500 (原価計算書)
570,000

経
106,600 (原価計算書)
587,750

間接費
642,000
570,000
587,750

共	
225,000	① 190,620
185,600	② 285,930
224,800	A 67,540
675,400	B 95,310

材1
① 479,200
② 190,620 < ③ 3370
A 119,350
B 106,800

材2
① 360,000
② 285,930 < ③ 4,780
A 97,650
B 160,200

A	
① 157,460	① 119,350
② 67,540	② 97,650
217,000	

B	
① 171,690	① 106,800
② 95,310	② 160,200
267,000	

部門責任報告書 材1

部		
#8 182,000	1,620,000	#8
1,100,800	1,262,500	#9
1,022,500	35,200	< ③
106,600		
896,000	1,286,200	#10
896,000		

部		
#17 1,329,000	1,329,000	#17
#8 1,620,000	1,620,000	8
9 1,262,500	1,262,500	9

## 全経簿記1級 工業 第171回 第4問類題

### 問題

個別受注生産をしている全経工業株式会社では、製造間接費については部門別計算を行っている。よって、下記の資料にもとづいて、(1)部門費振替表の作成、(2)第1製造部門費勘定・B補助部門費勘定・仕掛品勘定・製品勘定の記入、および(3)指図書別原価計算表を作成しなさい。なお、当月は、製造指図書#8、#9、#10の製造を行ったが、補修指図書#8-R1を発行し、補修を行った。月末には、補修指図書#8-R1の作業は終了し、集計された製造原価は製造指図書#8に賦課した。ただし、仕損費勘定は使用しないこと。(44点)

### 資料

#### 1. 月初製品原価

	指図書#7
前月繰越高	¥1,329,000

#### 2. 月初仕掛品原価

	指図書#8
前月繰越高	¥182,000

#### 3. 材料費

	指図書#8	指図書#9	指図書#10	指図書#8-R1
直接材料費	¥353,200	¥360,600	¥352,000	¥35,000

	第1製造部門	第2製造部門	A補助部門	B補助部門	部門共通費
間接材料費	¥179,000	¥118,000	¥62,000	¥58,000	¥225,000

#### 4. 労務費

	指図書#8	指図書#9	指図書#10	指図書#8-R1
直接労務費	¥362,000	¥284,600	¥332,400	¥43,500

	第1製造部門	第2製造部門	A補助部門	B補助部門	部門共通費
間接労務費	¥163,700	¥127,400	¥38,600	¥54,700	¥185,600

#### 5. 経費

	指図書#8	指図書#9	指図書#10	指図書#8-R1
直接経費	¥19,400	¥45,300	¥41,900	¥-

	第1製造部門	第2製造部門	A補助部門	B補助部門	部門共通費
間接経費	¥136,500	¥114,600	¥52,860	¥58,990	¥224,800

6.製造部門・補助部門への部門共通費の配賦割合

	第1製造部門	第2製造部門	A補助部門	B補助部門
部門共通費	30%	45%	10%	15%

7.作業くずの評価額

	指図書#8	指図書#9	指図書#10	指図書#8-R1
評価額	¥11,900	¥12,800	¥10,500	¥-

	第1製造部門	第2製造部門	A補助部門	B補助部門
評価額	¥3,370	¥4,780	¥-	¥-

8.製造部門への補助部門費の配賦割合

	第1製造部門	第2製造部門
A補助部門費	55%	45%
B補助部門費	40%	60%

9.製造指図書への製造部門費の予定配賦額

①製造部門費予算額および基準操業度

	第1製造部門費	第2製造部門費
製造間接費予算額	¥14,080,000	¥11,760,000
基準操業度	22,000時間	21,000時間

なお、第1製造部門費・第2製造部門費の配賦基準は、直接作業時間を採用している。

②実際直接作業時間

	指図書#8	指図書#9	指図書#10	指図書#8-R1
第1製造部門費	420時間	450時間	480時間	50時間
第2製造部門費	540時間	530時間	470時間	60時間

10.製造指図書#8、#9が完成した。

11.当月受注先に引き渡された製品は、指図書#7、#8であった。販売価格は#7が¥2,200,000、#8が¥2,500,000であり、代金はすべて掛けとした。

答案用紙

(1)

部門費振替表

(単位：円)

摘 要	合 計	第1製造部門	第2製造部門	A補助部門	B補助部門
部 門 個 別 費					
間 接 材 料 費					
間 接 労 務 費					
間 接 経 費					
部門共通費配賦額					
部 門 費 合 計					
作業くず評価額					
差 引 計					
A 補 助 部 門 費					
B 補 助 部 門 費					
実 際 発 生 額					
予 定 配 賦 額					
部 門 費 差 異	( )	( )	( )		

部門費差異の行の ( ) 内には、借方差異ならば-を、貸方差異ならば+を記入しなさい。

(2)

第1製造部門費

前月繰越	( )	( )	( )
( )	( )	作業くず	( )
B補助部門費	( )		
部門費差異	( )		
	( )		( )

B補助部門費

( )	( )	第1製造部門費	( )
		( )	( )
	( )		( )

仕掛品

前月繰越	( )	仕掛品	( )
材料	( )	( )	( )
賃金給料	( )	作業くず	( )
経費	( )	次月繰越	( )
第1製造部門費	( )		
第2製造部門費	( )		
( )	( )		
	( )		( )
前月繰越	( )		

製品

前月繰越	( )	( )	( )
( )	( )	次月繰越	( )
	( )		( )
前月繰越	( )		

(3)

指図書別原価計算表

(単位：円)

	指図書#8	指図書#9	指図書#10	指図書#8-R1	合計
月初仕掛品原価					
直接材料費					
直接労務費					
直接経費					
第1製造部門費					
第2製造部門費					
小計					
補修費					
合計					
作業くず評価額					
差引計					
備考	完 成	完 成	仕 掛 中	#8へ賦課	

解答 ● @4点 × 11 = 44点

(1)

部門費振替表

(単位：円)

摘要	合計	第1製造部門	第2製造部門	A補助部門	B補助部門
部門個別費					
間接材料費	417,000	179,000	118,000	62,000	58,000
間接労務費	384,400	163,700	127,400	● 38,600	54,700
間接経費	362,950	136,500	114,600	52,860	58,990
部門共通費配賦額	635,400	190,620	285,930	63,540	● 95,310
部門費合計	1,799,750	669,820	645,930	217,000	267,000
作業くず評価額	8,150	3,370	4,780	—	—
差引計	1,791,600	666,450	641,150	217,000	267,000
A補助部門費	( 217,000 )	119,350	● 97,650		
B補助部門費	( 267,000 )	106,800	160,200		
実際発生額	1,791,600	● 892,600	899,000		
予定配賦額	1,792,000	896,000	896,000		
部門費差異	( + ) 400	( + ) 3,400	( - ) 3,000		

部門費差異の行の ( ) 内には、借方差異ならば-を、貸方差異ならば+を記入しなさい。

(2)

## 第1製造部門費

前月繰越	( 669,820 )	(仕掛品)	( 896,000 )
(A補助部門費)	( 119,350 )	作業<ず	( 3,370 )
B補助部門費	( 106,800 )		
部門費差異	( ● 3,400 )		
	( 899,370 )		( 899,370 )

## B補助部門費

(製造間接費)	( 267,000 )	第1製造部門費	( ● 106,800 )
		(第2製造部門費)	( 160,200 )
	( 267,000 )		( 267,000 )

## 仕掛品

前月繰越	( 182,000 )	仕掛品	( 144,100 )
材料	( 1,100,800 )	(製品)	( ● 2,882,500 )
賃金給料	( 1,022,500 )	作業<ず	( 35,200 )
経費	( 106,600 )	次月繰越	( 1,286,200 )
第1製造部門費	( 896,000 )		
第2製造部門費	( 896,000 )		
(仕掛品)	( 144,100 )		
	( 4,348,000 )		( 4,348,000 )
前月繰越	( 1,286,200 )		

## 製品

前月繰越	( 1,329,000 )	(売上原価)	( ● 2,949,000 )
(仕掛品)	( 2,882,500 )	次月繰越	( 1,262,500 )
	( 4,211,500 )		( 4,211,500 )
前月繰越	( 1,262,500 )		

(3)

指図書別原価計算表

(単位：円)

	指図書#8	指図書#9	指図書#10	指図書#8-R1	合計
月初仕掛品原価	182,000	—	—	—	182,000
直接材料費	353,200	● 360,600	352,000	35,000	1,100,800
直接労務費	362,000	284,600	332,400	43,500	1,022,500
直接経費	19,400	45,300	41,900	—	106,600
第1製造部門費	268,800	288,000	307,200	32,000	896,000
第2製造部門費	302,400	296,800	● 263,200	33,600	896,000
小計	1,487,800	1,275,300	1,296,700	144,100	4,203,900
補修費	144,100	—	—	△ 144,100	0
合計	1,631,900	1,275,300	1,296,700	0	4,203,900
作業くず評価額	11,900	12,800	10,500	—	35,200
差引計	● 1,620,000	1,262,500	1,286,200	0	4,168,700
備考	完 成	完 成	仕 掛 中	#8へ賦課	

第170回 全経簿記級工業 類題 (部門別)

素材

250,000	(仕) 1,322,400
1,475,000	(向) 121,600
	(差) 1,500
	(損) 2,500
	277,000

工場消耗品

38,000	157,000
152,000	33,000

直工

1,160,000	270,000
	(仕) 940,800
	(向) 226,800
284,000	(差) 6,400

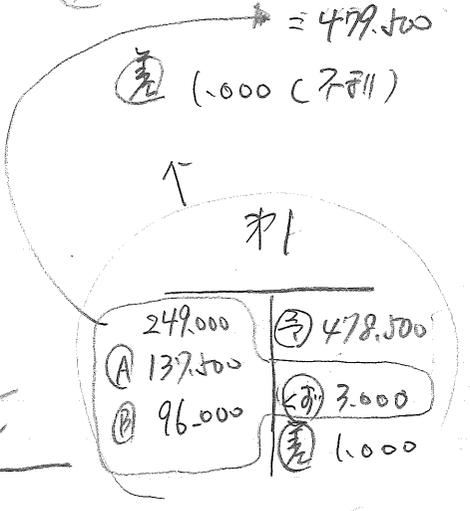
間接工

116,000	40,000
29,000	165,000

製造内接費

(素) 121,600	① 249,000
(損) 2,500	
(消) 157,000	② 246,000
(直) 226,800	
(向) 105,000	(A) 250,000
(控) 192,100	
(折) 180,000	(B) 240,000
	985,000

③ 478,500  
 ④ 249,000 + 137,500 + 96,000 - 3,000 = 479,500



材2

246,000	③ 518,500
(A) 112,500	
(B) 144,000	
(差) 16,000	
	A
250,000	① 137,500
	② 112,500
	B
	240,000
	① 96,000
	② 144,000

仕入

820,000	1,670,500	201
1,322,400	1,797,700	202(仕入)
940,800		
478,500	612,000	203
518,500		

全経簿記1級 工業 第170回 第4問類題

問題

全経工業株式会社の1月中の取引は、次のとおりである。下記の条件を参照して、各勘定口座の( )内に勘定科目または金額を記入し、原価計算表を作成しなさい。(44点)

条件

- 1.当社は、個別原価計算制度を採用しており、製造間接費については部門別計算を行っている。
- 2.当社は、顧客の注文に応じて製品を製造している。なお、当月は、製造指図書#201・#202・#203の製造を行ったが、#202の一部に仕損が生じたため、補修指図書#202-R1を発行し、補修を行った。
- 3.材料の消費高については、素材は予定価格により、また工場消耗品は棚卸計算法により計算している。
- 4.労務費については、直接工は作業内容別の時間把握を行い、予定消費賃率により賃金消費高を計算している。しかし、間接工については、作業内容別の時間把握を行っていない。
- 5.月初勘定残高(一部)については、次のとおりである。

素材(借方残高)	¥250,000			
工場消耗品(借方残高)	38,000			
賃金給料(貸方残高)	310,000	(内訳:直接工分 ¥270,000	間接工等分 ¥40,000)	
仕掛品(借方残高)	820,000	(内訳:製造指図書#201 ¥510,000	#202 ¥310,000)	

取引

- 1.素材¥1,475,000および工場消耗品¥152,000を掛けて仕入れた。
- 2.素材を次のとおり消費した。素材の予定価格は¥760(1kgあたり)である。

直接材料費				間接材料費	合計
製造指図書#201	製造指図書#202	製造指図書#203	補修指図書#202-R1		
640kg	750kg	240kg	110kg	160kg	1,900kg

- 3.素材の実際消費価格に実際消費量を乗じて計算した素材費は、¥1,445,500であり、材料消費価格差異を計上した。
- 4.素材の月末実地棚卸高は¥277,000であり、棚卸減耗費は製造間接費とした。(棚卸減耗費勘定は使用しないこと)
- 5.工場消耗品の月末実地棚卸高は¥33,000であり、実際消費高を製造間接費とした。
- 6.直接工および間接工等に対する当月の給与総支給高は¥1,276,000であり、預り金¥132,000を差し引き、正味支払高を当座預金より各従業員の銀行口座へ振り込んだ。なお、総支給高のうち直接工分は¥1,160,000であった。
- 7.直接工の賃金消費高を、次の作業時間によって計上した。予定消費賃率は¥840(1時間あたり)である。

直接作業時間				間接作業時間	合計
製造指図書#201	製造指図書#202	製造指図書#203	補修指図書#202-R1		
450時間	420時間	180時間	70時間	270時間	1,390時間

- 8.直接工の月末未払賃金高は¥284,000 であり、賃率差異を計上した。
- 9.間接工等の月末未払賃金高は¥29,000 であり、実祭消費高を製造間接費とした。
- 10.各製造部門費は、各製造指図書に対して予定配賦を行っている。配賦基準としては、第 1 製造部門費・第 2 製造部門費ともに下記の機械運転時間を採用している。なお、予定配賦率（1 機械運転時間あたり）は、第 1 製造部門費¥550、第 2 製造部門費¥610 である。

[機械運転時間]

製造部門費	製造指図書#201	製造指図書#202	製造指図書#203	補修指図書#202-R1	合計
第 1 製造部門費	250 時間	330 時間	240 時間	50 時間	870 時間
第 2 製造部門費	260 時間	310 時間	240 時間	40 時間	850 時間

- 11.製造経費¥192,100 を小切手を振り出して支払った。なお、製造経費はすべて製造間接費として計上した。
- 12.当月分の減価償却費¥180,000 を製造間接費として計上した。
- 13.当月に発生した製造間接費を各原価部門に振り替えた。
- 第 1 製造部門 ¥249,000    第 2 製造部門 ¥246,000  
A 補助部門 ¥250,000    B 補助部門 ¥240,000
- 14.補助部門費を各製造部門へ振り替えた。配賦基準は、下記のとおりである。
- ① A 補助部門費：第 1 製造部門 55%    第 2 製造部門 45%  
② B 補助部門費：第 1 製造部門 40%    第 2 製造部門 60%
- 15.第 1 製造部門において作業くず¥3,000 が発生し、第 1 製造部門費より控除した。
- 16.第 1 製造部門費および第 2 製造部門費における製造部門費配賦差異を計上した。
- 17.製造指図書#201 および#202 が完成した。なお、補修指図書#202-R1 に集計された製造原価は、作業が完了したので、製造指図書#202 に賦課した。

答案用紙

素 材

前 月 繰 越	( )	仕 掛 品	( )
( )	( )	製 造 間 接 費	( )
		( )	( )
		製 造 間 接 費	( )
		次 月 繰 越	( )
	( )		( )
前 月 繰 越	( )		

工 場 消 耗 品

( )	( )	( )	( )
買 掛 金	( )	次 月 繰 越	( )
	( )		( )
前 月 繰 越	( )		

賃 金 給 料

諸 口	( )	前 月 繰 越	( )
( )	( )	仕 掛 品	( )
		製 造 間 接 費	( )
		( )	( )
		製 造 間 接 費	( )
	( )		( )
		前 月 繰 越	( )

製 造 間 接 費

素 材	( )	第 1 製 造 部 門 費	( )
素 材	( )	( )	( )
( )	( )	A 補 助 部 門 費	( )
賃 金 給 料	( )	B 補 助 部 門 費	( )
賃 金 給 料	( )		
当 座 預 金	( )		
減 価 償 却 累 計 額	( )		
	( )		( )

第 1 製造部門費

製造間接費	( )	仕掛品	( )
( )	( )	作業くず	( )
B 補助部門費	( )	( )	( )
	( )		( )

第 2 製造部門費

( )	( )	( )	( )
A 補助部門費	( )	/	
B 補助部門費	( )		
製造部門費配賦差異	( )		
	( )		( )

A 補助部門費

製造間接費	( )	( )	( )
/		第 2 製造部門費	( )
	( )		( )

B 補助部門費

( )	( )	第 1 製造部門費	( )
/		( )	( )
	( )		( )

仕掛品

前月繰越	( )	仕掛品	( )
素材	( )	( )	( )
( )	( )	次月繰越	( )
第 1 製造部門費	( )	/	
第 2 製造部門費	( )		
仕掛品	( )		( )
	( )		( )
前月繰越	( )		

原 価 計 算 表

(単位：円)

指図書# 摘要	#201	#202	#203	#202-R1	合計
月初仕掛品原価					
直接材料費					
直接労務費					
第1製造部門費					
第2製造部門費					
小 計					
補 修 費					
合 計					
備 考	完 成	完 成	未 完 成	#202へ賦課	

解答 ● @4点×11=44点

素 材

前月繰越	( 250,000 )	仕掛品	( 1,322,400 )
(買掛金)	( 1,475,000 )	製造間接費	( 121,600 )
		(材料消費価格差異)	● ( 1,500 )
		製造間接費	( 2,500 )
		次月繰越	( 277,000 )
	( 1,725,000 )		( 1,725,000 )
前月繰越	( 277,000 )		

工場消耗品

(前月繰越)	( 38,000 )	(製造間接費)	● ( 157,000 )
買掛金	( 152,000 )	次月繰越	( 33,000 )
	( 190,000 )		( 190,000 )
前月繰越	( 33,000 )		

賃金給料

諸口	( 1,276,000 )	前月繰越	( 310,000 )
(次月繰越)	( 313,000 )	仕掛品	( 940,800 )
		製造間接費	( 226,800 )
		(賃率差異)	● ( 6,400 )
		製造間接費	( 105,000 )
	( 1,589,000 )		( 1,589,000 )
		前月繰越	( 313,000 )

製造間接費

素 材	( 121,600 )	第1製造部門費	( 249,000 )
素 材	● ( 2,500 )	(第2製造部門費)	( 246,000 )
(工場消耗品)	( 157,000 )	A補助部門費	( 250,000 )
賃金給料	( 226,800 )	B補助部門費	( 240,000 )
賃金給料	( 105,000 )		
当座預金	( 192,100 )		
減価償却累計額	( 180,000 )		
	( 985,000 )		( 985,000 )

第 1 製造部門費

製造間接費	( 249,000 )	仕掛品	( 478,500 )
(A補助部門費)	( 137,500 )	作業くず	( 3,000 )
B補助部門費	( ● 96,000 )	(製造部門費配賦差異)	( 1,000 )
	( 482,500 )		( 482,500 )

第 2 製造部門費

(製造間接費)	( 246,000 )	(仕掛品)	( 518,500 )
A補助部門費	( 112,500 )		
B補助部門費	( 144,000 )		
製造部門費配賦差異	( ● 16,000 )		
	( 518,500 )		( 518,500 )

A補助部門費

製造間接費	( 250,000 )	(第1製造部門費)	( 137,500 )
		第2製造部門費	( 112,500 )
	( 250,000 )		( 250,000 )

B補助部門費

(製造間接費)	( 240,000 )	第1製造部門費	( 96,000 )
		(第2製造部門費)	( 144,000 )
	( 240,000 )		( 240,000 )

仕掛品

前月繰越	( 820,000 )	仕掛品	( 194,300 )
素材	( 1,322,400 )	(製品)	( ● 3,468,200 )
(賃金給料)	( 940,800 )	次月繰越	( 612,000 )
第1製造部門費	( 478,500 )		
第2製造部門費	( 518,500 )		
仕掛品	( 194,300 )		
	( 4,274,500 )		( 4,274,500 )
前月繰越	( 612,000 )		

原 価 計 算 表

(単位：円)

指図書# 摘要	#201	#202	#203	#202-R1	合計
月初仕掛品原価	510,000	310,000	—	—	820,000
直接材料費	486,400	570,000	182,400	● 83,600	1,322,400
直接労務費	378,000	352,800	● 151,200	58,800	940,800
第1製造部門費	● 137,500	181,500	132,000	27,500	478,500
第2製造部門費	158,600	● 189,100	146,400	24,400	518,500
小 計	1,670,500	1,603,400	612,000	194,300	4,080,200
補 修 費	—	194,300	—	△ 194,300	0
合 計	1,670,500	1,797,700	612,000	0	4,080,200
備 考	完 成	完 成	未 完 成	#202へ賦課	

## 本気で合格る全経簿記1級（工業）仕訳編

勘定科目に関しては、特に一覧は用意しておりません。想定される科目で処理をして下さい。なお、本試験では、与えられた科目から選択するようにして下さい。

1. 豊島製作所から次の材料を掛けて仕入れた。

素材	300 kg	@¥2,000
工場消耗品	10 個	@¥500

2. 下のデータから棚卸計算法によって工場消耗品の当月消費額を間接材料費として計上した。

月初棚卸高：¥300,000      当月購入高：¥1,500,000      月末棚卸高：¥208,000

3. 主要材料の消費額を直接材料費として計上した。なお、実際消費量は、1,000 個であり、消費価格の計上は先入先出法による。

①月初棚卸高    300 個    @¥3,000      ②当月購入高    1,300 個    3,705,000

4. 素材について材料消費価格差異を計上した。なお、すでに素材勘定（貸方）に予定価格による払出額¥680,000 が記帳されている。

予定価格：¥400（1 kgあたり）    実際価格：¥420（1 kgあたり）

5. 全経製麺株式会社は薄力粉¥500,000 と工場作業者の制服¥100,000 を掛けで購入した。

6. 豊島工業所の本社は、原料¥2,000,000 および工場消耗品¥400,000 を購入し、工場へ送った。なお、その際発送費¥50,000 を含む代金のうち¥800,000 は小切手を振り出し、残額は掛けとした。(工場会計が本社会計より独立している場合の工場側の仕訳)

7. 当月における直接工の予定消費賃率による賃金消費額は¥3,000,000 であり、実際賃率による賃金消費額は¥3,050,000 であった。これをもとに賃率差異を計上した。

8. 当月末の未払賃金給料¥500,000 を計上した。負債勘定の中に未払賃金給料勘定を設けてある。

9. 亀山株式会社では、工場が本社会計より独立しており、当月末の賃金給料未払額が¥700,000 あった。未払賃金給料勘定が本社の元帳に設けられている。(工場側の仕訳)

10. 工場従業員の給与について、本日当座預金口座から各人の普通預金口座へ振り込んで支給した。総支給額は¥3,500,000 であり、社会保険料および所得税等の控除額は¥458,000 であった。

11. 本社は、工場の直接工および間接工従業員に対して、本日、給与（総支給額¥4,500,000 預り金¥600,000）から預り金を差し引き当座預金より普通預金口座へ振り込んだ。工場会計が本社会計より独立している場合の工場側の仕訳を示しなさい。なお、工場の元帳には、製造原価に関わる勘定科目のみが設けられている。

12. 下のデータから外注加工賃の当月消費額を計算し、製造指図書 # 31 に配賦した。

前月末未払額：¥100,000      当月支払額：¥900,000      当月末前払額：¥120,000

13. 工場設備の今月分の減価償却費を本社側で計上した。なお、経費の記帳について、工場元帳には特に経費勘定を設けていない。また、減価償却累計額勘定は本社元帳に設けている。工場会計が本社会計より独立している場合の工場側の仕訳を示しなさい。

（取得原価 10,000,000 期首減価償却累計額 2,800,000 耐用年数 10 年 200%定率法  
なお、当社は年間の減価償却費の月割りを月次で計上している）

14. 越前株式会社は実際原価計算制度の下で製造間接費を直接作業時間を基準に予定配賦している。年間の正常操業度（予算操業度）が 12,000 時間で年間の製造間接費予算が固定費 18,000,000、変動費 30,000,000 であり、当月の実際操業度が 980 時間で当月の製造間接費実際発生額¥3,800,000 であったため、配賦差異を振り替えた。なお、差異を把握する勘定は製造間接費配賦差異を使用している。

15. A 補助部門費¥1,000,000 および B 補助部門費¥600,000 を下記の割合で各製造部門へ振り替えた。

A 補助部門費：切削部門 60% 組立部門 40%

B 補助部門費：切削部門 40% 組立部門 60%

16. 当月中に切削部門で発生した作業くずの評価額は¥28,000 であった。この作業くずはいったん倉庫に保管された。

17. 補修指図書 組立 P C#101-R に集計された補修費は¥100,000 であり、製造間接費として処理した。

18. 特定製造指図書組立 P C #101 の原価計算表には、自社使用 P C (備品) の製造原価 ¥400,000 が集計されており、本日、完成した。

19. 上記問題の形式が下記の場合の仕訳を答えよ

前月繰越：¥100,000      直接労務費：¥300,000      直接経費：¥20,000      製造間接費：  
¥150,000

20. 得意先に製品 100 個 (単位原価 ¥2,300) を原価の 28% 増しで販売し、代金は掛けとした。なお、売上原価も計上すること。

21. 得意先に販売した製品 100 個 (単位原価 ¥2,300) のうち、品質不良を理由にその 5% 分が返品された。なお、この製品は原価の 28% 増しで掛け販売されており、販売時に売上原価も計上している。

22. 水戸製作所の本社は、得意先より返品（掛販売価額¥600,000、製造原価¥400,000）を受け、同製品は工場の倉庫に引き取られた。（工場会計が本社会計より独立している場合の工場側の仕訳。なお、製品勘定は工場に設けている。）

23. 過日、得意先に製品 500 個（単位原価¥2,800）を原価の 35%増しで掛け販売し、同時に売上原価も計上していた。ところが、本日、同販売製品のうち 100 個分について、売価の 5%相当額の値引きをした。

24. 組別総合原価計算において、当月の掛売上高は¥6,000,000 であり、その製造原価は、A 組製品が¥2,100,000 で、B 組製品が¥2,300,000 であった。製品の販売時に売上原価の計上も行うこと。

25. 工程別総合原価計算において、第 1 工程で 2,200 個（@¥575）の製品の製造が完了したので、そのすべてを第 2 工程に引き渡した。

26. 工程別原価計算において、最終工程である第2工程の時点で、主産物と副産物とに分離される。主産物の完成品原価は¥2,486,000であり、副産物の評価額は¥65,000であった。

27. 工程別総合原価計算において、倉庫に保管中の販売可能な第1工程完了品のうち、¥384,000を第2工程へ出庫した。

28. 組別総合原価計算において、組間接費¥2,220,000をA組製品に40%、B組製品に60%の割合で配賦した。

29. 組別総合原価計算において、素材を次のように消費した。

A組	¥380,000	B組	¥660,000	組間接費	¥150,000
----	----------	----	----------	------	----------

30.等級別総合原価計算において、次のとおり各製品が完成した。ただし、当月の完成品総合原価は¥7,200,000であり、等価係数は重量による。

1級製品 12 kg (1個あたりの重量) 1,000個 (当月完成)

2級製品 6 kg (1個あたりの重量) 4,000個 (当月完成)

34. 標準原価計算制度を採用している武市製作所では、仕掛品勘定の借方に製造間接費の実際発生額を記帳している。そのため、下記の数値にもとづいて予算差異を計上した。

実際作業時間における予算額 ¥2,750,000 実際発生額 ¥2,786,000

35. CMC 製作所はパーシャルプランによる標準原価計算制度を採用している単品種の製造業である。標準賃率が¥1,000で製品1個当たり標準作業時間が1時間となっており、当月の月初仕掛品完成品換算数量が60個、完成品が310個、月末仕掛品完成品換算数量が50個で、実際作業時間が310時間、実際直接労務費が¥330,000であったため、賃率差異と作業時間差異を振り替えた。なお、混合差異は賃率差異に含めることにしている。

## 本気で合格る全経簿記1級（工業）仕訳編 解答付き

勘定科目に関しては、特に一覧は用意しておりません。想定される科目で処理をして下さい。なお、本試験では、与えられた科目から選択するようにして下さい。

1. 豊島製作所から次の材料を掛けで仕入れた。

素材	300 kg	@¥2,000
工場消耗品	10 個	@¥500

解答

材料 605,000 / 買掛金 605,000  
(素材 600,000、工場消耗品 5,000)

2. 下のデータから棚卸計算法によって工場消耗品の当月消費額を間接材料費として計上した。

月初棚卸高：¥300,000      当月購入高：¥1,500,000      月末棚卸高：¥208,000

解答

製造間接費 1,592,000 / 材料 1,592,000

3. 主要材料の消費額を直接材料費として計上した。なお、実際消費量は、1,000 個であり、消費価格の計上は先入先出法による。

①月初棚卸高    300 個    @¥3,000      ②当月購入高    1,300 個    3,705,000

解答

仕掛品 2,895,000 / 材料 2,895,000

4. 素材について材料消費価格差異を計上した。なお、すでに素材勘定（貸方）に予定価格による払出額¥680,000 が記帳されている。

予定価格：¥400（1 kgあたり）    実際価格：¥420（1 kgあたり）

解答

差異 34,000 / 材料 34,000

5. 全経製麺株式会社は薄力粉¥500,000 と工場作業者の制服¥100,000 を掛けで購入した。

解答

材料 600,000 / 買掛金 600,000

6. 豊島工業所の本社は、原料¥2,000,000 および工場消耗品¥400,000 を購入し、工場へ送った。なお、その際発送費¥50,000 を含む代金のうち¥800,000 は小切手を振り出し、残額は掛けとした。(工場会計が本社会計より独立している場合の工場側の仕訳)

解答

材料 2,450,000 / 本社 2,450,000

7. 当月における直接工の予定消費賃率による賃金消費額は¥3,000,000 であり、実際賃率による賃金消費額は¥3,050,000 であった。これをもとに賃率差異を計上した。

解答

差異 50,000 / 賃金 50,000

8. 当月末の未払賃金給料¥500,000 を計上した。負債勘定の中に未払賃金給料勘定を設けてある。

解答

賃金 500,000 / 未払賃金 500,000

9. 亀山株式会社では、工場が本社会計より独立しており、当月末の賃金給料未払額が¥700,000 あった。未払賃金給料勘定が本社の元帳に設けられている。(工場側の仕訳)

解答

賃金 700,000 / 本社 700,000

10. 工場従業員の給与について、本日当座預金口座から各人の普通預金口座へ振り込んで支給した。総支給額は¥3,500,000 であり、社会保険料および所得税等の控除額は¥458,000 であった。

解答

賃金 3,500,000 / 預り金 458,000 当座預金 3,042,000
--

11. 本社は、工場の直接工および間接工従業員に対して、本日、給与（総支給額¥4,500,000 預り金¥600,000）から預り金を差し引き当座預金より普通預金口座へ振り込んだ。工場会計が本社会計より独立している場合の工場側の仕訳を示しなさい。なお、工場の元帳には、製造原価に関わる勘定科目のみが設けられている。

解答

賃金 4,500,000 / 本社 4,500,000
-----------------------------

12. 下のデータから外注加工賃の当月消費額を計算し、製造指図書 # 31 に配賦した。  
前月末未払額 : ¥100,000      当月支払額 : ¥900,000      当月末前払額 : ¥120,000

解答

仕掛品 680,000 / 外注加工費 680,000
-----------------------------

13. 工場設備の今月分の減価償却費を本社側で計上した。なお、経費の記帳について、工場元帳には特に経費勘定を設けていない。また、減価償却累計額勘定は本社元帳に設けている。工場会計が本社会計より独立している場合の工場側の仕訳を示しなさい。

（取得原価 10,000,000 期首減価償却累計額 2,800,000 耐用年数 10 年 200%定率法  
なお、当社は年間の減価償却費の月割りを月次で計上している）

解答

減価償却費（製造間接費） 120,000 / 本社 120,000
-----------------------------------

14. 越前株式会社は実際原価計算制度の下で製造間接費を直接作業時間を基準に予定配賦している。年間の正常操業度（予算操業度）が 12,000 時間で年間の製造間接費予算が固定費 18,000,000、変動費 30,000,000 であり、当月の実際操業度が 980 時間で当月の製造間接費実際発生額¥3,800,000 であったため、配賦差異を振り替えた。なお、差異を把握する勘定は製造間接費配賦差異を使用している。

解答

製造間接費 120,000 / 製造間接費配賦差異 120,000

15. A 補助部門費¥1,000,000 および B 補助部門費¥600,000 を下記の割合で各製造部門へ振り替えた。

A 補助部門費：切削部門 60%      組立部門 40%

B 補助部門費：切削部門 40%      組立部門 60%

解答

切削部門費 840,000 / A 1,000,000

組立部門費 760,000 / B 760,000

16. 当月中に切削部門で発生した作業くずの評価額は¥28,000 であった。この作業くずはいったん倉庫に保管された。

解答

作業くず 28,000 / 切削部門費 28,000

17. 補修指図書 組立 P C #101-R に集計された補修費は¥100,000 であり、製造間接費として処理した。

解答

製造間接費 100,000 / 仕掛品 100,000

18. 特定製造指図書組立 P C #101 の原価計算表には、自社使用 P C (備品) の製造原価 ¥400,000 が集計されており、本日、完成した。

解答

備品 400,000 / 仕掛品 400,000

19. 上記問題の形式が下記の場合の仕訳を答えよ

前月繰越 : ¥100,000      直接労務費 : ¥300,000      直接経費 : ¥20,000      製造間接費 :  
¥150,000

解答

備品 570,000 / 仕掛品 570,000

20. 得意先に製品 100 個 (単位原価 ¥2,300) を原価の 28% 増しで販売し、代金は掛けとした。なお、売上原価も計上すること。

解答

売掛金 294,400 / 売上 294,400

売上原価 230,000 / 製品 230,000

21. 得意先に販売した製品 100 個 (単位原価 ¥2,300) のうち、品質不良を理由にその 5% が返品された。なお、この製品は原価の 28% 増して掛け販売されており、販売時に売上原価も計上している。

解答

売上 14,720 / 売掛金 14,720

製品 11,500 / 売上原価 11,500

22. 水戸製作所の本社は、得意先より返品（掛販売価額¥600,000、製造原価¥400,000）を受け、同製品は工場の倉庫に引き取られた。（工場会計が本社会計より独立している場合の工場側の仕訳。なお、製品勘定は工場に設けている。）

解答

製品 400,000 / 本社 400,000

23. 過日、得意先に製品 500 個（単位原価¥2,800）を原価の 35%増しで掛け販売し、同時に売上原価も計上していた。ところが、本日、同販売製品のうち 100 個分について、売価の 5%相当額の値引きをした。

解答

売上 18,900 / 売掛金 18,900

24. 組別総合原価計算において、当月の掛売上高は¥6,000,000 であり、その製造原価は、A 組製品が¥2,100,000 で、B 組製品が¥2,300,000 であった。製品の販売時に売上原価の計上も行うこと。

解答

売掛金 6,000,000 / 売上 6,000,000

売上原価 4,400,000 / A 組製品 2,100,000

B 組製品 2,300,000

25. 工程別総合原価計算において、第 1 工程で 2,200 個（@¥575）の製品の製造が完了したので、そのすべてを第 2 工程に引き渡した。

解答

第 2 工程仕掛品 1,265,000 / 第 1 工程仕掛品 1,265,000

26. 工程別原価計算において、最終工程である第2工程の終点で、主産物と副産物とに分離される。主産物の完成品原価は¥2,486,000であり、副産物の評価額は¥65,000であった。

解答

製品 2,486,000 / 第2工程仕掛品 2,551,000  
副産物 65,000

27. 工程別総合原価計算において、倉庫に保管中の販売可能な第1工程完了品のうち、¥384,000を第2工程へ出庫した。

解答

第2工程仕掛品 384,000 / 第1工程半製品 384,000

28. 組別総合原価計算において、組間接費¥2,220,000をA組製品に40%、B組製品に60%の割合で配賦した。

解答

A組仕掛品 888,000 / 組間接費 2,220,000  
B組仕掛品 1,332,000

29. 組別総合原価計算において、素材を次のように消費した。

A組 ¥380,000      B組 ¥660,000      組間接費 ¥150,000

解答

A組仕掛品 380,000 / 素材 1,196,000  
B組仕掛品 666,000  
組間接費 150,000

30.等級別総合原価計算において、次のとおり各製品が完成した。ただし、当月の完成品総合原価は¥7,200,000であり、等価係数は重量による。

1 級製品 12 kg (1 個あたりの重量) 1,000 個 (当月完成)

2 級製品 6 kg (1 個あたりの重量) 4,000 個 (当月完成)

解答

1 級製品 2,400,000 / 仕掛品 7,200,000

2 級製品 4,800,000

34. 標準原価計算制度を採用している武市製作所では、仕掛品勘定の借方に製造間接費の実際発生額を記帳している。そのため、下記の数値にもとづいて予算差異を計上した。

実際作業時間における予算額 ¥2,750,000 実際発生額 ¥2,786,000

解答

予算差異 36,000 / 仕掛品 36,000

35. CMC 製作所はパーシャルプランによる標準原価計算制度を採用している単品種の製造業である。標準賃率が¥1,000 で製品 1 個当たり標準作業時間が 1 時間となっており、当月の月初仕掛品完成品換算数量が 60 個、完成品が 310 個、月末仕掛品完成品換算数量が 50 個で、実際作業時間が 310 時間、実際直接労務費が¥330,000 であったため、賃率差異と作業時間差異を振り替えた。なお、混合差異は賃率差異に含めることにしている。

解答

賃率差異 20,000 / 仕掛品 30,000

作業時間差異 10,000

## 工業 原価計算表

第3問 原価計算表を完成しなさい。  
ただし、各指図書に対する製造間接費の配賦額は、直接材料費法による。

原価計算表

指図書 摘要	#101	#102	#103	#101-R1	合計
月初仕掛品原価	( )	103,000	-	-	( )
直接材料費	220,000	300,000	250,000	( )	( )
直接労務費	287,000	( )	165,000	48,000	660,000
直接経費	81,000	( )	( )	( )	220,000
製造間接費	( )	390,000	( )	45,500	( )
小計	1,335,300	( )	820,000	181,500	( )
補修費	( )	-	-	△( )	0
合計	( )	( )	820,000	0	3,295,800
備考	完成	完成	未完成	#1へ賦課	

解答

原価計算表

指図書 摘要	#101	#102	#103	#101-R1	合計
月初仕掛品原価	( 461,300)	103,000	-	-	( 564,300)
直接材料費	220,000	300,000	250,000	( 35,000)	( 805,000)
直接労務費	287,000	( 160,000)	165,000	48,000	660,000
直接経費	81,000	( 6,000)	80,000	( 53,000)	220,000
製造間接費	( 286,000)	390,000	( 325,000)	45,500	( 1,046,500)
小計	1,335,300	( 959,000)	820,000	181,500	( 3,295,800)
補修費	( 181,500)	-	-	△( 181,500)	0
合計	( 1,516,800)	( 959,000)	820,000	0	3,295,800
備考	完成	完成	未完成	#1へ賦課	

第3問 介護ロボットを製造・販売しているCMC野洲工場では、個別原価計算を採用し、製造間接費については予定配賦している。そこで、以下の製造間接費に関する資料から、解答用紙の当月の製造間接費勘定を完成しなさい。

1. 消耗工具 月初棚卸高;¥150,000 当月買入高;¥400,000 月末棚卸高;¥220,000
2. 棚卸減耗費 買入部品の帳簿棚卸高;¥450,000 主要材料の实地棚卸高;¥440,000
3. 間接工賃金 前月末払高;¥380,000 当月支払高;¥1,000,000 月末支払高;¥400,000
4. 減価償却費 半期見積額;¥2,100,000
5. 動力料 当月支払額;¥650,000 当月測定額;¥660,000
6. 什器総合保険料 前月前払高;¥100,000 当月支払高;¥420,000 月末前払高;¥120,000
7. 予定配賦額 直接原価¥4,000,000の( )%を予定配賦する。

製造間接費			
材料	( )	仕掛品	( )
材料	( )	( )	( )
賃金給料	( )		
減価償却累計額	( )		
電力料	( )		
保険料	( )		
( )	( )		( )
( )	( )		( )

不利差異が170,000円発生している  
 ( )は全て埋まるとは限らない

解答

製造間接費			
材料	( 330,000)	仕掛品	( 2,600,000)
材料	( 10,000)	(製造間接費配賦差異)	( 170,000)
賃金給料	( 1,020,000)		
減価償却累計額	( 350,000)		
電力料	( 660,000)		
保険料	( 400,000)		
( )	( )		
( )	( 2,770,000)		( 2,770,000)

第3問 次の資料にもとづいて、製造間接費部門別配賦表を完成しなさい。なお、補助部門費の配賦は直接配賦法による

資料

	合計	切削部	組立部	動力部	修繕部	事務部
従業員数	50人	15	20人	6人	5	4人
占有面積	2,000m <sup>2</sup>	800m <sup>2</sup>	600m <sup>2</sup>	300m <sup>2</sup>	200m <sup>2</sup>	100m <sup>2</sup>
消費電力量	500kwh	300kwh	200kwh	-	-	-
修繕時間	200時間	100時間	80時間	20時間	-	-

製造間接費部門別配賦表

費目	合計	切削部	組立部	動力部	修繕部	事務部
部門個別費	10,810	3,100	3,000	3,000	1,100	610
部門共通費	-	-	-	-	-	-
建物減価償却費	4,000	( )	( )	( )	( )	( )
厚生費	3,000	( )	( )	( )	( )	( )
部門費	17,810	( )	( )	( )	( )	( )
事務部門費	( )	( )	( )	( )	( )	( )
修繕部門費	( )	( )	( )	( )	( )	( )
動力部門費	( )	( )	( )	( )	( )	( )
製造部門費	17,810	( )	( )	( )	( )	( )

解答

製造間接費部門別配賦表

費目	合計	切削部	組立部	動力部	修繕部	事務部
部門個別費	10,810	3,100	3,000	3,000	1,100	610
部門共通費	-	-	-	-	-	-
建物減価償却費	4,000	( 1,600)	( 1,200)	( 600)	( 400)	( 200)
厚生費	3,000	( 900)	( 1,200)	( 360)	( 300)	( 240)
部門費	17,810	( 5,600)	( 5,400)	( 3,960)	( 1,800)	( 1,050)
事務部門費	( 1,050)	( 450)	( 600)	( )	( )	( )
修繕部門費	( 1,800)	( 1,000)	( 800)	( )	( )	( )
動力部門費	( 3,960)	( 2,376)	( 1,584)	( )	( )	( )
製造部門費	17,810	( 9,426)	( 8,384)	( )	( )	( )